

JENESYS2015 招へいプログラム 日 ASEAN 青少年サッカー交流（女子）の記録

1. プログラム概要

3月10日から3月18日まで、ASEAN サッカー連盟に所属する7か国（カンボジア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ）から、2020年に東京で開催されるオリンピックに向けて今後の活躍が期待される青少年女子サッカー選手及びブルネイ、東ティモール、ベトナムを含む引率者の計184名が来日しました。

一行は、静岡県御殿場市を訪問し、オリエンテーション、サッカーの合同練習等を行い、3月12日から16日までは、公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の協力の下、御殿場高原時之栖 裾野グラウンドにて開催された青少年サッカー交流プログラムに参加し、日本チームを含め、交流試合を行いました。交流試合や、全チーム合同で行われた交流会を通じ、参加国同士の友好を深めました。

その後、都内にて外務省表敬を行ったほか、日産スタジアムや日本サッカーミュージアムなど、サッカー関連施設見学も行い、スポーツに関連する対日理解を深めました。

そのほか、三嶋大社や皇居など、歴史的建造物の視察を通じ、サッカーだけにとどまらず、幅広く日本の魅力を体感しました。

2. 参加国・人数

計10か国、計184名

※招聘国内訳：ブルネイ（5名）、カンボジア（24名）、ラオス（24名）、マレーシア（24名）、ミャンマー（23名）、フィリピン（24名）、シンガポール（24名）、タイ（24名）、東ティモール（6名）、ベトナム（6名）

※うちブルネイ、東ティモール、ベトナムは引率者のみの参加

3. 訪問地

東京都、静岡県（全員）

4. 日程

3月11日（金）

成田/羽田国際空港より入国

静岡県へ移動（バス）

来日オリエンテーション、引率者ブリーフィング

チームマネージャーズミーティング（引率代表者）

3月12日（土）

【講義、視察】女子サッカーの推進に関する講義、横浜 FC シーガルズトレーニングマッチ視察（※ブルネイ、東ティモール、ベトナム）

講師：横浜 FC 会長 奥寺康彦氏

【歴史的建造物】三嶋大社

【商業施設視察】

合同練習／交流試合

3 月 13 日（日）

合同練習／交流試合

3 月 14 日（月）

【講義、視察】役員意見交換会 日本のクラブチームの仕組みに関する講義、施設視察
（※各国引率者）

講師：JFA アカデミー福島(女子)チーフコーチ 沖山雅彦氏

合同練習／交流試合

交流会

3 月 15 日（火）

【基調講演、VTR 鑑賞】日本女子サッカーの歴史・変遷に関する講演、鑑賞

講師：公益財団法人 日本サッカー協会 特任理事 女子委員長 野田朱美氏

トレーニング／交流試合

3 月 16 日（水）

トレーニング／交流試合

【商業施設視察】御殿場プレミアムアウトレット

東京方面へ移動（バス）

3 月 17 日（木）

【視察】日産スタジアム、日本サッカーミュージアム

【表敬】外務省表敬

【歴史的建造物】皇居・二重橋（※一部参加国）

3 月 18 日（金）

成田/羽田国際空港より出国

3. プログラム記録写真



3/12-16 交流試合（カンボジア）
（静岡県御殿場市）



3/12-16 交流試合（ラオス）
（静岡県御殿場市）



3/12-16 交流試合（マレーシア）
（静岡県御殿場市）



3/12-16 交流試合（ミャンマー）
（静岡県御殿場市）



3/12-16 交流試合（フィリピン）
（静岡県御殿場市）



3/12-16 交流試合（シンガポール）
（静岡県御殿場市）

	
3/12-16 交流試合（タイ） （静岡県御殿場市）	3/12【講義、視察】 （ブルネイ、東ティモール、ベトナム） （静岡県御殿場市） 写真提供：(C)JFA/PR
	
3/12-16 交流試合（静岡県御殿場市）	3/12-16 交流試合（静岡県御殿場市）
	
3/12 【歴史的建造物】三嶋大社 （静岡県三島市）	3/12 【歴史的建造物】三嶋大社 （静岡県三島市）



3/14【講義、視察】役員意見交換会
(静岡県御殿場市)



3/15 【基調講演、VTR鑑賞】
(静岡県御殿場市)



3/14 交流会 (静岡県御殿場市)



3/14 交流会 (静岡県御殿場市)



3/17【視察】日産スタジアム
(神奈川県横浜市)



3/17【視察】日産スタジアム
(神奈川県横浜市)



3/17【視察】日本サッカーミュージアム
(東京都)



3/17【表敬】外務省表敬（東京都）



3/17【表敬】外務省表敬（東京都）



3/17【歴史的建造物】皇居（東京都）



3/17 修了証授与（東京都）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ブルネイ、引率者

家族や友人から、日本は素晴らしい国だと聞いていましたが、想像していた以上でした。成田空港に到着した瞬間から、言葉では書き表せないほどの経験が始まり、日本の技術力と日本人の素晴らしさに驚きました。ぜひまた訪れたいと思います。日本はとても進んだ国ですが、一方、伝統習慣を今でも守っているということを、自国の人たちに伝えたいと思います。また皆さんとお会いしたいです。

◆カンボジア、青少年女子サッカー選手

自然が美しい日本を訪問することができて、大変嬉しく思います。道端にはごみがなく、不法に捨てられていないことに気づきました。滞在先の部屋は衛生的で清潔感に溢れ、美しい富士山も見ることができました。食堂では美味しい食事が用意され、スタッフの方々が温かく迎えてくださいました。また、夜のイルミネーションも、美しく輝いていました。日本チームとの交流試合では、一所懸命、知識と経験を吸収しようと頑張りました。日本チームの皆さんはとても明るく、親しみやすいと感じました。また、バスの車内で携帯電話を忘れた時には、ドライバーさんが親切に届けてくださいました。来年、機会があれば再び日本を訪問したいと考えています。

◆ラオス、青少年女子サッカー選手

今回のプログラムに参加し、日本人の温かいおもてなし、その国民性と礼儀正しいマナーに感動しました。また、私たちが泊まった宿泊施設も清潔できれいでした。関係者の皆さんは、私たちを熱烈歓迎してくれました。日本に来ることができて、本当に良かったです。日本について色々なことを学びました。一番感動したことは、生まれて初めて、桜の花と富士山をこの目で見たことです。富士山は勇壮でとても高い山でした。ぜひまた、日本に来たいです。

◆マレーシア、青少年女子サッカー選手

日本に来ることができて、大変幸せでした。このプログラムでたくさんの経験をしました。帰国後、日本での経験を皆に伝えたいと思います。第一に、日本の文化についてです。日本の文化は私たちの文化とは全く違います。例えば、日本人はいつでも他の人を敬い、大変友好的です。次に、日本や、他の国々から来た新しい友人のことを伝えたいと思います。そして、最後に、このプログラムで訪れた様々な場所、例えば富士山の素晴らしさについても伝えたいです。このプログラムが末永く続くことを願っています。

◆ミャンマー、青少年女子サッカー選手

日本に来ることができて、とても嬉しかったです。色々な経験ができました。日本人がいかに関心正しか、よく分かりました。日本のチームと試合だということで、少し緊張しました。しかし「私たちはミャンマーを代表しているんだ」という気持ちで、ゴールを与えないように力を振り絞って頑張りました。「ミャンマー代表」という気持ちを忘れずに、これからの試合も全力で頑張っていきます。

◆フィリピン, 青少年女子サッカー選手

日本チームと対戦した時、日本人選手たちは、控えめで親切でした。交流会では、まるで昔からの友人のように接してくれました。日本人は誠実で優しい人たちであることが分かりました。また、日本人は、できる限り日本の文化を大切にし、保持しています。

また、日本は国全体としても美しいところだと思います。空気はきれいで、環境は清潔で、技術は発展しています。歴史的建造物を見ましたが、全てが素晴らしいものでした。実に日本の文化と生活様式を表しています。家族や友人と共に、ぜひまた日本を訪れたいと思います。日本で色々なことを経験し、また多くの異国の友人と知り合え、大変幸せでした。いつの日かアジアの人々全体が一つになり、一心同体になれば、と願っています。

◆シンガポール, 青少年女子サッカー選手

日本人は規律正しく、集中する時と遊ぶ時との区別がありました。そして、常に時間を守ります。日本人選手はいつも友好的で、マナーを守っていました。相手のことをよく知らなくても、声をかけてくれ、笑いかけてくれました。今回の日本滞在が楽しかったのは、日本の人々のお蔭です。シンガポールに帰ったら、この文化を分かち合いたいです。日本では、サッカーだけでなく文化も学びました。そして人々の暮らしも学びました。シンガポールでも、日本のような習慣文化があるといいなと思いました。

◆タイ, 青少年女子サッカー選手

日本には美しい場所がたくさんあることが印象的でした。誰もが一度は見たいと思っっている桜や富士山を、毎日、間近に見ることができて、とても幸せでした。その上、街はとても清潔でゴミ一つ落ちていませんでした。日本人は時間に正確で、食事の時間、トレーニングの時間、サッカー場の使用開始時間などが、いつもきちりと守られていました。出会った日本の方々はいつも和やかで、笑顔が素敵でした。私は日本式の挨拶がとても好きになりました。宿泊先は清潔で居心地が良く、とても良い環境でした。

◆東ティモール, 引率者

アカデミーの講義や、ドイツのベルダー・ブレーメンの元選手・奥寺氏との意見交換や、なでしこジャパンの2011年ワールドカップ優勝についての講義を受け、そして、青少年の友好試合を観戦し、対日理解を深めました。本プログラムで習得した多くの事は、東ティモールのサッカー（男女とも）を日本のように発展させるために役立つものです。帰国後、この経験を本国のサッカー関係者に伝え、自国の発展に役立てていきたいと思っています。

◆ベトナム, 引率者

日本のサッカーは、政府と日本サッカー協会からの大きな支援があるために、アジアで第一位の地位を獲得しています。そして女子もサッカーをプレーする多くの機会が与えられていると感じました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆日本、青少年女子サッカー選手

・今回、JENESYS プログラムで色々な経験をする事ができました。その中で、強く心に残っていることが2つあります。

1つ目は、国際試合ができたということです。日本人とは違った強さを感じることができました。体が強く、また、言葉も違うので、いつもとは違った緊張感を持つことができました。

2つ目は、英語を話すということです。普段、学校で英語を勉強していますが、なかなか英語を話す機会がありませんでした。ですので、今回の交流で英語を使って名前を聞いたり、写真を撮ろう、と言ったりして、たくさん話すことができました。今回、交流した皆さんは、私の片言の英語を聞きとってくれ、そしてその話を盛り上げてくれました。違う国の人たちと英語やジェスチャーを使ってコミュニケーションをとり、良い交流をすることができました。

このプログラムに参加して、たくさんの経験ができたことに感謝し、これからのトレーニングや私生活、将来に活かしていきたいと思います。

・試合の中では、海外選手のフィジカルの強さを感じました。球際での勝負強さや、大きな声を出す点は、日本に足りない点だと思います。海外選手のような、しっかりとした体幹で、当たり前負けしない体を作りたいと思います。

また、交流会では、それぞれの国のパフォーマンスを楽しみ、会話や写真撮影をして、交流することができました。「いつでも笑顔で挨拶をし、感謝の気持ちを伝える」といった「なでしこ」らしさによって、海外選手にも、日本は良いところだと思えてもらったように感じ、嬉しかったです。言葉が分からないながらも、サッカーや挨拶で、交流することができ、とても楽しかったです。これからも、たくさんの国の方々と交流したいと思いました。

6. 参加者の帰国後の発信内容

	
帰国後の発信	帰国後の発信